



印西市立印西中学校

自立貢献

学校だより

令和7年5月23日発行

No.3 発行者 坂野 峰子



いじめ・体罰相談窓口：宇井・木島・川本・山本達・大川・新村・和田・教頭・校長
セクハラ相談窓口：新村・綿貫・高木・木島・宇井・和田・教頭・校長



学校のあるべき姿



5月19日に、第1回全校集会を行いました。そこで2つの話をしました。

1つ目は、「学校のあるべき姿」についてです。「学校のあるべき姿」とは、何をやっても3年生が手本となり、下級生にその姿を示すことができるということです。憧れられる3年生であるということです。

印西中の生徒は、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生と、学年があがるほど取り組む姿勢が立派になって、自分たちで正しい判断ができ、自分たちでよい学校を築いていけます。今年の3年生も、その姿を示しています。始業式、入学式では、式典に臨む姿として、微動だにしない整然とした姿、想いを込めた感動させる合唱ができました。また、新入生歓迎会、生徒総会では、リーダーとしての自覚を持った堂々とした発表ができました。このように3年生としての姿が代々受け継がれています。これからも、学校のあるべき理想の姿であり続け、たくさんの達成感や充実感を味わってほしいです。

2つ目は、『誇れる印西中』の中心となる生徒会活動について話をしました。昨年度2月に、新生徒会になって本部役員と生活委員会と一緒に取り組んだ「あいさつ名人」、今年度5月には、「いじめゼロ・乱暴な言葉遣いをしない・友達の良いところを見つける」との思いで取り組んだ「ふわふわキャンペーン」など、よりよい学校づくりに向けて、生徒たちが主体的に取り組んでいます。今回の全校集会においても、無言入場をし、体育館に到着した2・3年生は、集会で歌う校歌や合唱に向けて、発声練習に取り組んでいました。ここでも歌声委員会を中心に上級生が1年生の手本となって活動しました。この他の委員会活動も自分たちで、気づき、考え、行動に移し、常時活動の充実を目指しています。

こうした毎日の小さな積み重ねの上に、皆で心をつなげて取り組む行事があり、また行事で得たことを日常の活動へ生かしていくという繰り返しの中で、子どもたちは様々な経験と体験をして成長していきます。これは、生活面だけでなく、学習面でも部活動でも同じです。「誇れる印西中」が生徒たちの合い言葉となり、様々な活動を通して身につけていく力が、やがて迎える進路選択や次のステージに向かうための自信、そして自己を確立して未来を担う大人へと大きく成長していくものと期待しています。

新入生歓迎会





生徒総会 ～挨拶・自主性・奉仕・挑戦～



生徒総会では、生徒会本部役員、委員会委員長、学年協議会、部活動部長が活躍しました。また、5年間続けてきた生徒会重点目標を見直し、さらに印西中をよくするために、「挨拶・自主性」に加え「奉仕・挑戦」を追加しました。サブタイトルには、次のような想いを込め、令和7年度の生徒会活動が本格的にスタートしました。

1

- 挨拶 : 人間関係を築くきっかけが増える、コミュニケーションがとれる、地域の人にも挨拶をしてほしい、雰囲気明るくなる。
- 自主性 : 先のことを考えて誰かに言われる前に自分で行動する。
- 奉仕 : 思いやりの心を持ち、人のために行動する。
- 挑戦 : 行事や新しい事に積極的に挑戦する。

